

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 社会福祉法人小田原福祉会

研修事業の名称 介護職員初任者研修（通学課程）

1 職務の理解（ 7時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
1-①多様なサービスの理解	3時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材（DVD）を鑑賞後、介護職が働く職場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的なイメージについてグループディスカッションを行う。 ・法人内事業所を見学し更にイメージを高める。
1-②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4時間	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ (視聴覚教材の活用、現場経験のある講師の体験談、事業所見学) ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ、多職種、介護保険外のサービスを含めた地域の社会資源との連携
合計	7	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（ 10時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法

2-①人権と尊厳を支える介護	7時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人としての尊重 ・ アドボカシー ・ エンパワメントの視点 ・ 役割りの実感 ・ 尊厳のある暮らし ・ 利用者のプライバシーの保護 <p>(イ) ICF</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護分野におけるICF <p>(ウ) QOL</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ QOLの考え方 ・ 生活の質 <p>(エ) ノーマライゼーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノーマライゼーションの考え方 <p>(オ) 虐待防止、身体拘束禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体拘束禁止 ・ 高齢者の虐待防止 ・ 高齢者の擁護者支援 <p>(カ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法 ・ 成年後見制度 ・ 日常生活自立支援事業 <p>【演習】</p> <p>尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開についてグループ検討発表を行う。</p>
2-②自立に向けた介護	3時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立・自律支援 ・ 残存機能の活用 ・ 動機と欲求 ・ 意欲を高める支援 ・ 個別性・個別ケア ・ 重度化防止 <p>(イ) 介護予防</p> <p>介護予防の考え方</p>
合計	10	

3 介護の基本（ 7時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
3－①介護職の役割、専門職と多職種連携	3時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 介護環境の特徴と理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護の違い ・地域包括ケアの方向性 <p>(イ) 介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化防止・遅延化の視点 ・利用者主体の支援体制 ・自立した生活を支えるための援助 ・根拠のある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・多職種からなるチーム <p>(ウ) 介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる専門性を持つ多職種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護師とチームになり利用者を支える意味 ・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ・チームケアにおける役割分担 <p>【演習】</p> <p>チームケアの重要性、役割分担などのグループ討議を行う。</p>
3－②介護の職業倫理	1時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理 ・専門職の職業倫理の意義 ・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度） ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重

<p>3－③介護における安全性の確保とリスクマネジメント</p>	<p>1.5時間</p>	<p>【講義】</p> <p>(ア) 介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ・ リスクとハザード <p>(イ) 事故防止、安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメント ・ 分析の手法と視点 ・ 事故に至った経緯の報告 (家族への報告、市町村への報告等) ・ 情報の共有 <p>(ウ) 感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染の原因と経緯 (感染源の排除、感染経路の遮断) ・ 感染に対する正しい知識
<p>3－④介護職の安全</p>	<p>1.5時間</p>	<p>【講義】</p> <p>介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ ストレスマネジメント ・ 腰痛の予防に関する知識 ・ 手洗いうがいの励行 ・ 手洗いの基本 ・ 感染症対策 <p>【実技】</p> <p>でんぷんりののヨード反応で手洗いチェックを行う。 感染症対策を踏まえた手洗い、うがいを実際に行う。</p>
<p>合計</p>	<p>7</p>	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（ 9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
4-①介護保険制度	3時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 介護保険制度創設の背景及び目的・動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置 ・地域包括ケアシステムの推進 <p>(イ) 仕組みの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険制度としての基本的仕組み ・介護給付と種類 ・予防給付 ・要介護認定の手順 <p>(ウ) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政負担 ・指定介護サービス事業者の指定 <p>【演習】</p> <p>介護保険の理念についてグループ討議を行う。</p>
4-②-①医療との連携とリハビリテーション	1時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護 ・施設における看護と介護の役割・連携
4-②-②医療との連携とリハビリテーション	1時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護
4-②-③医療との連携とリハビリテーション	2時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念 ・リハビリテーション医療の方法
4-③障害福祉制度及びそのほかの制度	2時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 障害者福祉制度の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の理念 ・ICF <p>(イ) 障害者総合支援制度のしくみの基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで <p>(ウ) 個人の権利を守る制度の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業
合計	9	

5 介護におけるコミュニケーション技術（ 7時間）

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
5-①介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ・傾聴 ・共感の応答 <p>(イ) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語的コミュニケーションの特徴 <p>(ウ) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いを把握する ・意欲低下の要因を考える ・利用者の感情に共感する ・家族の心理的理解 ・家族へのいたわりと励まし ・信頼関係の形成 ・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い <p>(エ) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・構音障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 <p>【演習】</p> <p>言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション・傾聴を対で行い、コミュニケーションの意義を学習する。</p> <p>利用者の心理や利用者との人間関係を傷つけるコミュニケーションの取り方やその理由についてグループ討議発表を行う。</p>

5-②介護におけるチームコミュニケーション	4時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義・目的、利用者の状況を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類 ・個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等） ・ヒヤリハット報告書 ・5W1H <p>(イ) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告の留意点 ・連絡の留意点 ・相談の留意点 <p>(ウ) コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議 ・情報共有の場 ・役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼） <p>・ケアカンファレンスの重要性</p> <p>【演習】</p> <p>事例を用いた記録を作成し発表を行う。</p>
合計	7	
6 老化の理解（ 6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
6-①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 老年期の人たちと老化に伴う心身の変化と特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防衛反応（反射）の変化 ・喪失体験 <p>(イ) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・咀嚼機能の低下 ・筋・骨・関節の変化 ・体温維持機能の変化 ・精神的機能の変化と日常生活への影響 <p>【演習】</p> <p>「日常での心理的变化に気づく視点」のディスカッション、発表、共有を行う。</p>

6-②高齢者の健康	3時間	<p>【講義】</p> <p>(ア) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折 ・筋力の低下と動き・姿勢の変化 ・関節痛 <p>(イ) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患） ・循環器障害の危険因子の対策 ・老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症） <ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥性肺炎 ・症状の小さな変化に気づく視点 ・高齢者は感染症にかかりやすい <p>【演習】</p> <p>「日常での体調変化に気づく視点とその対応方法」のディスカッション、発表、共有を行う。</p>
合計	6	

7 認知症・行動障害の理解(6時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
7-①認知症を取り巻く状況	1時間	<p>【講義】 認知症ケアの理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パーソンセンタードケア ・ 認知症ケアの視点（できることに着目する） <p>【演習】 認知症ケアの理念について討議発表する。</p>
7-②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	<p>【講義】 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記憶の作られ方 ・ 認知症の定義 ・ 物忘れとの違い ・ せん妄の症状 ・ 健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア） ・ 治療 ・ 薬物療法 ・ 認知症に使用される薬 ・ 認知症の原因疾患 <p>【演習】 生活の中に起こっている認知症の症状と物忘れの違いを検討し発表共有を行う。</p>
7-③認知症に伴うこころとからだ日常生活	2時間	<p>【講義】 (ア) 認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の中核症状 ・ 認知症の行動・心理症状（BPSD） ・ 不適切ケア ・ 生活環境での改善 <p>(イ) 認知症の利用者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の気持ちを推察する。 ・ プライドを傷つけない。 ・ 相手の世界に合わせる。 ・ 失敗しないような状況をつくる。 ・ すべての援助行為がコミュニケーションであると考えて。 ・ 身体を通したコミュニケーション ・ 相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持を洞察する。 ・ 認知症の進行に合わせたケア <p>【演習】 認知症になっても「生活者として人を見る」を討議共有を行う。</p>

7-④家族への支援	1時間	【講義】 ・認知症の受容課程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア） 【演習】 家族の気持ち、ストレスについて討議共有を行う。
計	6	
8 障害の理解（ 3時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
8-①障害の基礎的理解	1時間	【講義】 (ア) 障害の理念の I C F ・ I C F の分類と医学的分類 ・ I C F の考え方 (イ) 障害者福祉の基本理念 ・ ノーマライゼーションの概念
8-②障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	【講義】 (ア) 身体障害 ・ 視覚障害 ・ 聴覚・平衡障害 ・ 言語・咀嚼障害 ・ 肢体不自由 (イ) 知的障害 ・ 知的障害 (ウ) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ・ 統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患 ・ 高次脳機能障害 ・ 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動障害などの発達障害 (エ) その他の心身の機能障害 【演習】 聴覚障害の方への介護上の留意点に対する理解を深めるための討議を行う。
8-③家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	【講義】 家族への支援 ・ 障害の理解・障害の受容支援 ・ 介護負担の軽減 【演習】 障害の受容のプロセスと家族支援の考え方について討議共有を行う。
合計	3	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（ 80 時間）

	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	9-①介護の基本的な考え方	3 時間	【講義】 ・ 倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ・ 法的根拠に基づく介護 【演習】 生活者としての人を捉え、倫理的な介護理念をチームで作ります。
	9-②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4 時間	【講義】 ・ 学習と記憶の基礎知識 ・ 感情と意欲の基礎知識 ・ 自己概念と生きがい ・ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・ 心の持ち方が行動に与える影響 ・ からだの状態が心に与える影響 【演習】 こころとからだがい欲や行動に与える影響と支援についての討議共有する。
	9-③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	【講義】 ・ 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・ 骨、間接、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・ 中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・ 自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・ こころとからだを一体的に捉える ・ 利用者の様子の普段との違いに気づく視点
生活支援技術の講義・演習	9-④生活と家事	2 時間	【講義】 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 ・ 生活歴 ・ 自立支援 ・ 予防的対応 ・ 主体性・能動性を引き出す ・ 多様な生活習慣 ・ 価値観 【演習】 人の生活はそれぞれ価値観が異なることへの理解をする討議共有を行う。

<p>9-⑤快適な居住環境整備と介護</p>	<p>2時間</p>	<p>【講義】 快適な居住環境に関する基礎的知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内に多い事故 ・バリアフリー ・住宅改修 ・福祉用具貸与 <p>【演習】 家庭内に起こりうる事故について討議共有する。</p>
<p>9-⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5時間</p>	<p>【講義】 整容に関連する基礎知識、整容の支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身支度 ・整容行動 整髪・爪切り ・洗面の意義・効果 <p>【演習】 衣服の着脱の実技演習を行う。 整髪・爪切りの実技を行う。</p>

	<p>9-⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7 時間</p>	<p>【講義】 移動・移乗に関する基礎知識、多様な移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 ・利用者の自然な動きの活用 ・残存能力の活用・自立支援 ・重心・重力の動きの理解 ・ボディメカニクスの基本原則 ・移乗介護の具体的な方法（車いすへの具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車椅子・洋式トイレ間の移乗） <ul style="list-style-type: none"> ・移乗介助（車いす・歩行器・杖等） ・褥瘡予防 <p>【演習】 ボディメカニクスの実技演習を行う。 立ち上がりの実技演習を行う。 歩行介助の実技演習を行う。 杖歩行の実技演習を行う。 視覚障害者の歩行介助の実技演習を行う。 階段歩行介助の実技演習を行う。 起き上がりの実技演習を行う。 ベッドから車いす・椅子から車いす介助の実技演習を行う。 体位変換の実技演習を行う。 車いす介助の実技演習を行う。</p>
--	--	-----------------	--

	<p>9-⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>5時間</p>	<p>【講義】 食事に関連する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する意味 ・食事のケアに対する介護者の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢 ・咀嚼・嚥下のメカニズム ・空腹感 ・満腹感 ・好み ・食事の環境整備（時間・場所等） ・食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防 <p>【演習】 口腔ケア・摂食嚥下食事介護に関する技術演習を行う。</p>
	<p>9-⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>11時間</p>	<p>【講義】 入浴、清潔保持に関連した基礎的知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心や遠慮への配慮 ・体調の確認 ・全身清拭（身体状況の確認、室内環境の整備、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法 ・陰部洗浄（臥床状態での方法） ・足浴・手浴・洗髪 <p>【演習】 全身浴の技術演習を行う。 足浴の実技演習を行う。 手浴の実技演習を行う。 全身清拭の実技演習を行う。 洗髪の実技演習を行う。</p>

<p>9-⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>【講義】 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄とは ・身体面（生理面）での意味 ・心理面での意味 ・社会的な意味 ・プライド・羞恥心 ・プライバシーの保護 ・おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担、尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法 ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） <p>【演習】 Pトイレ介助の実技演習を行う。 便器・尿器の実技演習を行う。 おむつ介助の実技演習を行う。</p>
<p>9-⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3時間</p>	<p>【講義】 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を弊害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ・安楽な姿勢、褥瘡予防 <p>【演習】 ベッドメイクの実技演習を行う。 背抜き、およびベッド臥床時のずり落ちの実技演習を行う。 安楽な体位の実技演習を行う。</p>

	9-⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	4時間	<p>【講義】 終末期に関する基本的知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）癌死） ・臨終が近づいた時の兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性 <p>【演習】 事例を踏まえて尊厳ある死について討議共有を行う。</p>
生活支援技術演習	9-⑬介護過程の基本的理解	7時間	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチ ・個別援助計画の立て方 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助計画書の作成を実施する。
	9-⑭総合生活支援技術演習	6時間	<p>【演習】 (事例による展開)</p> <p>生活の各場面での介助について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例1.5時間程度のサイクルで実施する） ・事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施 <p>*本科目の⑥～⑪の内容においても、「⑭総合生活支援技術演習」で選択する高齢の2事例と同じ事例を共有して用い、その支援技術を適用する考え方の理解と技術の習得を促すのが望ましい。</p> <p>*本科目の⑥～⑪の内容における各技術の演習及び「⑭総合生活支援技術演習」においては、一連の演習を通して受講者の技術度合いの評価（介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認等）を行う。</p>

実習	1 2 時間	【実習】 通所介護（6時間×2日） 【実習内容】 利用者とのコミュニケーションを通し、高齢者の心理を理解する。 可能な限りの介護実習を行い技術を習得する。
合計	80	
10 振り返り（ 4時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
10-①振り返り	3時間	【講義】 ・研修を通じて学んだこと ・研修を通じて学んだこと今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） 【演習】 振り返りシートを記入後、それぞれの課題について意見交換する。
10-②就業へ備えと研修終了後における継続的な研修	1時間	【講義】 ・継続的に学ぶべきこと ・継続的に学ぶべきこと研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（OJT、OFF-JT）を紹介
合計	4	
全カリキュラム合計時間	139時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。

。